

文学と語学教育

——佛教大学英米学科 1 年生対象の意識調査の分析 (9) ——

松 本 真 治

1. はじめに

文学と語学教育のあり方の方向づけを見据えるために、筆者は 2007 年度より英米学科新入生を対象に、英米文学と英語学習に関する意識調査を無記名式のアンケート形式で実施している。2020 年度も例年どおり、春学期の英米学科 1 年生必修科目「英語文学論 1H」(旧カリキュラムでは「英米文学入門 1H」)の第 1 回目の対面授業(4 月)において、授業のオリエンテーションを兼ねて文学と語学に関するアンケート調査を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の大流行のため、その予定を変更せざるを得なくなった。

佛教大学の 2020 年度の学年暦では、春学期は 4 月 7 日より授業を開始することになっていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4 月 2 日になって学年暦が急遽変更されることとなり、授業開始日を 4 月 20 日とし、5 月 9 日までを B-net Learning を利用した Web 学習期間、5 月 11 日から 7 月 25 日を対面授業期間とすることになった(その後、4 月 7 日の緊急事態宣言の発出を受け、5 月 11 日以降も Web 学習期間を延長し、春学期中は原則 B-net Learning によるオンライン授業を継続実施することとなる)。筆者の担当する「英語文学論 1H」は水曜日 1 限の開講であり、当初の予定では 4 月 8 日の対面授業でのアンケート調査を予定していたが、4 月 22 日からの B-net Learning を利用した Web 上でのアンケート調査に変更することにした。

しかしながら、アンケート調査の予定を再度変更しなければならない事態

が発生した。B-net Learning を利用したオンライン授業開始の初日 4 月 20 日に、システム設計段階での想定を超える約 2000 名以上のアクセスがあったために、システムがダウンする。また翌 4 月 21 日に同時にログインした利用者数が約 2500 名を超えたことにより、システムの動作速度が低下し、事務局としては、このままの状態ではスムーズな利用ができないと判断し、B-net Learning の利用を断念することにした。そして、4 月 22 日から 5 月 10 日の期間を完全休講とし、Google Classroom を新しいシステムとして利用したオンライン授業の再開を 5 月 11 日とすることとなった。この結果、「英語文学論 1H」の初回の授業は 5 月 13 日となり、例年と比べて一か月以上遅い時期でのアンケート調査実施となった。調査対象となる新入生各人の PC 環境やコンピュータ・リテラシーのことも考慮して、アンケート調査は、5 月 7 日から 15 日の 9 日間を回答期間として設定し、Google Classroom を使い、WORD で作成された質問紙に回答を記入し（無記名）、添付ファイルで提出してもらった。

2019 年度より、入学直後の 4 月の初回授業でのアンケート調査だけではなく、最終回の授業（7 月）においても、一部を除いて同じ質問項目によるアンケート調査を実施している。2020 年度も同様に、最終回の授業を行った 7 月 22 日から翌週の 29 日を回答期間と設定し、Web 上で 2 回目のアンケート調査を行った。

本稿では、2020 年 5 月および 7 月調査に関して、カテゴリカルデータ（順位および頻度）の結果について報告し、例外的に大学での授業が本格的にはじまった 5 月時点と、春学期の終了する 7 月時点での 2020 年度入学生の英米文学と英語学習に対する意識を、2019 年度の調査結果とも比較しながら検討する。

2020 年度のアンケート形式は、基本的に 2019 年度に使用したものと同じである。2020 年 7 月調査では、基本的に 2020 年 5 月調査と同じアンケート形式を使用しているが、各質問項目において、「どんな文学 [映画] ですか」「その理由も書いてください」といったような自由記述で回答を求めることは省略し、選択回答式の質問だけにしている。また、5 月調査では、質問項目 6)

として「次の英米の作家・作品について〔知っている⇒○／聞いたことはある⇒△／知らない⇒×〕をつけてください」を質問しているが、7月調査ではこの質問全体を省いている。さらに、質問項目16)については、7月調査では、「目標とする英語力はどの程度ですか?」のみを自由記述形式で質問するだけで、「そのためにどんな学習が必要だと思いますか」という質問は省略している。

アンケート (2020 年度)

1) 学年について

1. 1年生 2. 2年生 3. 3年生 4. 3年生(編入生) 5. 4年生(以上)
(一つだけ丸をつけてください)

2) 英米文学は勉強すべきだと思いますか? その理由も書いてください。

1. そう思う 2. どちらかと言えばそう思う 3. どちらとも言えない
4. どちらかと言えばそう思わない 5. そう思わない
(一つだけ丸をつけてください)

3) 英語を読むとき、訳文(和訳)は必要ですか? その理由も書いてください。

1. そう思う 2. どちらかと言えばそう思う 3. どちらとも言えない
4. どちらかと言えばそう思わない 5. そう思わない
(一つだけ丸をつけてください)

4) 英語を読むとき、直読直解(英語を英語のまま日本語に訳さずに読む)を心がけていますか? その理由も書いてください。

1. そう思う 2. どちらかと言えばそう思う 3. どちらとも言えない
4. どちらかと言えばそう思わない 5. そう思わない
(一つだけ丸をつけてください)

5) 文学(日本・外国を問わず)は好きですか? どんな文学ですか? その理由も書いてください。

1. 好き 2. どちらかと言えば好き 3. どちらとも言えない
4. どちらかと言えば好きではない 5. 好きではない
(一つだけ丸をつけてください)

6) 次の英米の作家・作品について〔知っている⇒○／聞いたことはある⇒△／知らない⇒×〕をつけてください。

〈省 略〉

7) 映画は好きですか？ どんな映画ですか？ その理由も書いてください。

1. 好き 2. どちらかと言えば好き 3. どちらとも言えない
4. どちらかと言えば好きではない 5. 好きではない

(一つだけ丸をつけてください)

8) 日本語字幕なしの英語音声だけの映画は好きですか？ その理由も書いてください。

1. 好き 2. どちらかと言えば好き 3. どちらとも言えない
4. どちらかと言えば好きではない 5. 好きではない

(一つだけ丸をつけてください)

9) 英語を習得するためには「リーディング (reading / 読解)」という作業は必要だと思いますか？ その理由も書いてください。

1. そう思う 2. どちらかと言えばそう思う 3. どちらとも言えない
4. どちらかと言えばそう思わない 5. そう思わない

(一つだけ丸をつけてください)

10) 英語で書かれた本は好きですか？ その理由も書いてください。

1. 好き 2. どちらかと言えば好き 3. どちらとも言えない
4. どちらかと言えば好きではない 5. 好きではない

(一つだけ丸をつけてください)

11) 授業以外で英語で書かれたものを读みますか？ その理由も書いてください。

1. 日常的に読む 2. ときどき読む 3. 読まない

(一つだけ丸をつけてください)

12) 英語で書かれた Web ページや email を读みますか？ その理由も書いてください。

1. 日常的に読む 2. ときどき読む 3. 読まない

(一つだけ丸をつけてください)

- 13) 授業以外で英語で書かれたものを読みたいですか？ その理由も書いてください。
1. そう思う 2. どちらかと言えばそう思う 3. どちらとも言えない
4. どちらかと言えばそう思わない 5. そう思わない
(一つだけ丸をつけてください)
- 14) 英語で書かれたものを読むなら、どんなものが読みたいですか？ 次の選択肢から選んで丸をつけてください。(複数回答可)
1. 小説 2. 詩 3. 新聞 4. 雑誌 5. ノンフィクション
6. 歴史 7. リーダー [やさしい英語で書き直された本]
8. TOEIC / 英検等の試験対策問題 9. Web ページ 10. email
- 15) 英語で書かれた文学を読むことは英語の習得に役立つと思いますか？ その理由も書いてください。
1. そう思う 2. どちらかと言えばそう思う 3. どちらとも言えない
4. どちらかと言えばそう思わない 5. そう思わない
(一つだけ丸をつけてください)
- 16) 目標とする英語力はどの程度ですか？ そのためにどんな学習が必要だと思いますか？
- 17) 英米学科生に英米文学の基礎知識は必要だと思いますか？ その理由も書いてください。
1. そう思う 2. どちらかと言えばそう思う 3. どちらとも言えない
4. どちらかと言えばそう思わない 5. そう思わない
(一つだけ丸をつけてください)

2. 2020 年度アンケート結果

▼表 2-0 実施データ

実 施 日	入学者数	授業登録者数	回答者数
2020 年 5 月 7 日～15 日	74 人	73 人	70 人
2020 年 7 月 22 日～29 日	74 人	73 人	71 人

▼表 2-1 ①英米文学は勉強すべきだと思いますか？

	そう思う	どちらかと言 えばそう思う	どちらとも 言えない	どちらかと言え ばそう思わない	そう思わない
2020 年	42	24	4	0	0
5 月	60.0%	34.3%	5.7%	0.0%	0.0%
2020 年	18	39	7	4	3
7 月	25.4%	54.9%	9.9%	5.6%	4.2%

▼表 2-2 ②英語を読むとき、訳文（和訳）は必要ですか？

	そう思う	どちらかと言 えばそう思う	どちらとも 言えない	どちらかと言え ばそう思わない	そう思わない
2020 年	26	23	15	5	1
5 月	37.1%	32.9%	21.4%	7.1%	1.4%
2020 年	23	30	16	1	1
7 月	32.4%	42.3%	22.5%	1.4%	1.4%

▼表 2-3 ③英語を読むとき、直読直解（英語を英語のまま日本語に訳さずに読む）を心がけていますか？

	そう思う	どちらかと言 えばそう思う	どちらとも 言えない	どちらかと言え ばそう思わない	そう思わない
2020 年	15	19	13	15	8
5 月	21.4%	27.1%	18.6%	21.4%	11.4%
2020 年	13	29	17	12	0
7 月	18.3%	40.8%	23.9%	16.9%	0.0%

▼表 2-4 ④文学（日本・外国は問わず）は好きですか？

	好 き	どちらかと言 えば好き	どちらとも 言えない	どちらかと言え ば好きではない	好きではない
2020 年	12	15	30	8	5
5 月	17.1%	21.4%	42.9%	11.4%	7.1%
2020 年	18	22	18	5	8
7 月	25.4%	31.0%	25.4%	7.0%	11.3%

▼表 2-5 ⑤映画は好きですか？

	好 き	どちらかと言 えば好き	どちらとも 言えない	どちらかと言え ば好きではない	好きではない
2020 年	52	10	5	0	3
5 月	74.3%	14.3%	7.1%	0.0%	4.3%
2020 年	48	19	2	0	2
7 月	67.6%	26.8%	2.8%	0.0%	2.8%

▼表 2-6 ⑥日本語字幕なしの英語音声だけの映画は好きですか？

	好 き	どちらかと言 えば好き	どちらとも 言えない	どちらかと言え ば好きではない	好きではない
2020 年	7	10	28	13	11
5 月	10.0%	14.3%	40.0%	18.6%	15.7%
2020 年	7	17	33	9	5
7 月	9.9%	23.9%	46.5%	12.7%	7.0%

▼表 2-7 ⑦英語を習得するためには「リーディング (reading/ 読解)」という作業は必要だと思いますか？

	そう思う	どちらかと言 えばそう思う	どちらとも 言えない	どちらかと言え ばそう思わない	そう思わない
2020 年	59	8	1	0	0
5 月	84.3%	11.4%	1.4%	0.0%	0.0%
2020 年	53	15	2	1	0
7 月	74.6%	21.1%	2.8%	1.4%	0.0%

▼表 2-8 ⑧英語で書かれた本は好きですか？

	好 き	どちらかと言 えば好き	どちらとも 言えない	どちらかと言え ば好きではない	好きではない
2020 年	12	12	35	4	6
5 月	17.1%	17.1%	50.0%	5.7%	8.6%
2020 年	9	18	32	7	5
7 月	12.7%	25.4%	45.1%	9.9%	7.0%

▼表 2-9 ⑨授業以外で英語で書かれたものを読みますか？

	日常的に読む	ときどき読む	読まない
2020 年 5 月	5 7.1%	40 57.1%	23 32.9%
2019 年 7 月	7 9.9%	38 53.5%	25 35.2%

▼表 2-10 ⑩英語で書かれた Web ページや email を読みますか？

	日常的に読む	ときどき読む	読まない
2020 年 5 月	9 12.9%	30 42.9%	30 42.9%
2020 年 7 月	11 15.5%	38 53.5%	21 29.6%

▼表 2-11 ⑪授業以外で英語で書かれたものを読みたいですか？

	そう思う	どちらかと言え ばそう思う	どちらとも 言えない	どちらかと言え ばそう思わない	そう思わない
2020 年 5 月	32 45.7%	28 40.0%	6 8.6%	2 2.9%	1 1.4%
2020 年 7 月	14 19.7%	36 50.7%	15 21.1%	6 8.5%	0 0.0%

▼表 2-12 ⑫英語で書かれた文学を読むことは英語の習得に役立つと思いますか？

	そう思う	どちらかと言え ばそう思う	どちらとも 言えない	どちらかと言え ばそう思わない	そう思わない
2020 年 5 月	57 81.4%	12 17.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
2020 年 7 月	50 70.4%	19 26.8%	1 1.4%	0 0.0%	1 1.4%

▼表 2-13 ⑬英米学科生に英米文学の基礎知識は必要だと思いますか？

	そう思う	どちらかと言え ばそう思う	どちらとも 言えない	どちらかと言え ばそう思わない	そう思わない
2020 年 5 月	47 67.1%	13 18.6%	7 10.0%	1 1.4%	0 0.0%
2020 年 7 月	35 49.3%	24 33.8%	8 11.3%	1 1.4%	3 4.2%

▼表 2-14 ⑭英語で書かれたものを読むなら、どんなものが読みたいですか？▼（複数回答可）

	小 説	詩	新 聞	雑 誌	ノンフィクション
2020 年	47	13	28	36	24
5 月	67.1%	18.6%	40.0%	51.4%	34.3%
2020 年	41	8	27	41	18
7 月	57.7%	11.3%	38.0%	57.7%	25.4%
	歴 史	リーダー	TOEIC / 英検等	Web ページ	email
2020 年	18	32	40	18	14
5 月	25.7%	45.7%	57.1%	25.7%	20.0%
2020 年	5	29	39	26	16
7 月	7.0%	40.8%	54.9%	36.6%	22.5%

▼表 2-15 ⑮次の英米の作家・作品について [知っている／聞いたことはある／知らない] をつけてください。

2020 年 5 月			
	知っている	聞いたことはある	知らない
チャールサー	8	6	53
	11.4%	8.6%	75.7%
シェイクスピア	33	32	4
	47.1%	45.7%	5.7%
ミルトン	6	6	55
	8.6%	8.6%	78.6%
ジェイン・オースティン	3	4	60
	4.3%	5.7%	85.7%
ワーズワース	0	3	64
	0.0%	4.3%	91.4%
コールリッジ	1	1	65
	1.4%	1.4%	92.9%
バイロン	4	4	59
	5.7%	5.7%	84.3%
ディケンズ	3	9	55
	4.3%	12.9%	78.6%
ブロンテ姉妹	2	0	64
	2.9%	0.0%	91.4%

ハーディ	2	4	61
	2.9%	5.7%	87.1%
オスカー・ワイルド	5	14	49
	7.1%	20.0%	70.0%
D. H. ロレンス	3	5	59
	4.3%	7.1%	84.3%
ジェイムズ・ジョイス	1	9	57
	1.4%	12.9%	81.4%
T. S. エリオット	1	11	55
	1.4%	15.7%	78.6%
イエイツ	0	3	64
	0.0%	4.3%	91.4%
グレアム・グリーン	0	0	67
	0.0%	0.0%	95.7%
サマセット・モーム	0	0	67
	0.0%	0.0%	95.7%
コンラッド	0	2	65
	0.0%	2.9%	92.9%
ジョージ・オーウェル	5	11	51
	7.1%	15.7%	72.9%
バーナード・ショー	4	8	55
	5.7%	11.4%	78.6%
E. M. フォースター	0	7	60
	0.0%	10.0%	85.7%
ヴァージニア・ウルフ	1	5	61
	1.4%	7.1%	87.1%
エドガー・アラン・ポー	8	9	51
	11.4%	12.9%	72.9%
マーク・トウェイン	5	1	61
	7.1%	1.4%	87.1%
メルヴィル	0	10	57
	0.0%	14.3%	81.4%
ロバート・フロスト	0	6	61
	0.0%	8.6%	87.1%

ヘンリー・ジェイムズ	2	9	56
	2.9%	12.9%	80.0%
フィッツジェラルド	5	3	60
	7.1%	4.3%	85.7%
フォークナー	0	9	57
	0.0%	12.9%	81.4%
ヘミングウェイ	15	20	32
	21.4%	28.6%	45.7%
オー・ヘンリー	4	10	53
	5.7%	14.3%	75.7%
スタインベック	4	5	58
	5.7%	7.1%	82.9%
テネシー・ウィリアムズ	1	8	58
	1.4%	11.4%	82.9%
アーサー・ミラー	1	9	57
	1.4%	12.9%	81.4%
ソール・ベロー	1	0	66
	1.4%	0.0%	94.3%
サリンジャー	4	3	60
	5.7%	4.3%	85.7%
アップダイク	0	1	66
	0.0%	1.4%	94.3%
『ハムレット』	15	20	31
	21.4%	28.6%	44.3%
『マクベス』	8	12	47
	11.4%	17.1%	67.1%
『リア王』	7	10	50
	10.0%	14.3%	71.4%
『オセロー』	8	23	36
	11.4%	32.9%	51.4%
『ロミオとジュリエット』	49	18	3
	70.0%	25.7%	4.3%
『ベニスの商人』	10	18	38
	14.3%	25.7%	54.3%

『自負と偏見』	3	4	60
	4.3%	5.7%	85.7%
『オリバー・ツイスト』	1	5	61
	1.4%	7.1%	87.1%
『クリスマス・キャロル』	6	22	40
	8.6%	31.4%	57.1%
『荒地』	1	17	50
	1.4%	24.3%	71.4%
『ジェイン・エア』	2	1	64
	2.9%	1.4%	91.4%
『嵐が丘』	1	6	60
	1.4%	8.6%	85.7%
『ガリバー旅行記』	32	29	8
	45.7%	41.4%	11.4%
『ドリアン・グレイの肖像』	0	4	62
	0.0%	5.7%	88.6%
『ダーバヴィル家のテス』	0	0	67
	0.0%	0.0%	95.7%
『チャタレイ夫人の恋人』	4	6	57
	5.7%	8.6%	81.4%
『闇の奥』	0	3	64
	0.0%	4.3%	91.4%
『月と六ペンス』	0	3	64
	0.0%	4.3%	91.4%
『ユリシーズ』	0	0	67
	0.0%	0.0%	95.7%
『インドへの道』	1	3	63
	1.4%	4.3%	90.0%
『ダロウェイ夫人』	2	1	64
	2.9%	1.4%	91.4%
『第三の男』	0	6	61
	0.0%	8.6%	87.1%
『怒りのぶどう』	2	3	62
	2.9%	4.3%	88.6%

『マイ・フェア・レディ』	2	4	61
	2.9%	5.7%	87.1%
『白鯨』	6	20	43
	8.6%	28.6%	61.4%
『モルグ街の殺人』	6	8	53
	8.6%	11.4%	75.7%
『老人と海』	8	8	51
	11.4%	11.4%	72.9%
『武器よさらば』	3	5	59
	4.3%	7.1%	84.3%
『ハックルベリィ・フィンの冒険』	5	4	58
	7.1%	5.7%	82.9%
「賢者の贈り物」	5	5	57
	7.1%	7.1%	81.4%
「最後の一葉」	1	2	64
	1.4%	2.9%	91.4%
『デージー・ミラー』	0	1	66
	0.0%	1.4%	94.3%
『響きと怒り』	0	4	63
	0.0%	5.7%	90.0%
『はつかねずみと人間』	0	12	55
	0.0%	17.1%	78.6%
『偉大なギャッツビー』	1	6	60
	1.4%	8.6%	85.7%
『誰がために鐘は鳴る』	5	13	49
	7.1%	18.6%	70.0%
『ガラスの動物園』	1	3	63
	1.4%	4.3%	90.0%
『セールスマンの死』	0	4	63
	0.0%	5.7%	90.0%
『ライ麦畑で捕まえて』 (『キャッチャー・イン・ザ・ライ』)	7	15	46
	10.0%	21.4%	65.7%
『風と共に去りぬ』	8	18	41
	11.4%	25.7%	58.6%

※無回答もあり

3. 2020 年 5 月調査結果の分析と考察

3.1 英米学科生が英米文学を学ぶことに関する質問

- ①英米文学は勉強すべきだと思いますか？
②英語で書かれた文学を読むことは英語の習得に役立つと思いますか？
③英米学科生に英米文学の基礎知識は必要だと思いますか？

2020 年 5 月調査では、英米学科生が英米文学を学ぶことに対する肯定的な意見が優勢であり、しかも少なくとも 85%以上の回答者が英米文学の学習に対して意欲的な姿勢を示している（表 2-1, 2-12, 2-13）。2019 年 4 月調査の結果と比較すると、マン・ホイットニー検定の結果として 2 つの質問において有意差が認められ、それは「①英米文学は勉強すべきだと思いますか？」（ $U = 1782$, $p = .001$, $r = .29$ ）と「③英米学科生に英米文学の基礎知識は必要だと思いますか？」（ $U = 2010$, $p = .027$, $r = .19$ ）であった。

質問「①英米文学は勉強すべきだと思いますか？」については、2020 年 5 月調査では「そう思う」という強い肯定的な回答がもっとも多く 60.0%を占め、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせると 94.3%（70 人中 66 人）が肯定的な意見となっており、「どちらかと言えばそう思わない」「そう思わない」という否定的な回答はゼロであった。2019 年 4 月調査でも全体としては肯定的な意見が優勢であったが、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせても 76.7%（73 人中 56 人）であり、しかも「どちらかと言えばそう思う」という回答が 41.1%ともっとも多かった。また、「どちらとも言えない」が 19.2%を占め、また否定的な回答「どちらかと言えばそう思わない」も 4.1%であった（表 3-1）。

質問項目①に対する 2020 年度入学生の自由記述欄の一例を紹介しておくと、「そう思う」と回答した学生の一人は「文学を学ぶことでより英語や英米

文化の理解が深まると思うから」と記入しており、同じような意見は他にも数多く見られる。「どちらかと言えばそう思う」と回答した一人の学生は、「文学に興味があるから」と書いており、文学に興味のある学生が英米学科に入学していることは、英米文学を専門とする筆者にとって喜ばしいことである。「どちらとも言えない」と回答した4人のうち、2人は自由記述欄には未記入であった。残りの2人のうち、一人は「英語を勉強する上で知っていたほうがいいと思うから」と英米文学を学ぶことに対して肯定的であるが、もう一人は「英米文学の必要性がわからないから」と否定的な意見を書いている。

▼表 3-1 ①英米文学は勉強すべきだと思いますか？

	そう思う	どちらかと言 えばそう思う	どちらとも 言えない	どちらかと言 えばそう思わない	そう思わない
2020 年	42	24	4	0	0
5 月	60.0%	34.3%	5.7%	0.0%	0.0%
2019 年	26	30	14	3	0
4 月	35.6%	41.1%	19.2%	4.1%	0.0%

(2020 年 5 月： $n = 70$, 2019 年 4 月： $n = 73$)

質問「⑬英米学科生に英米文学の基礎知識は必要だと思いますか？」については、2020 年 5 月調査と 2019 年 4 月調査の有意差は、危険率 5%での判定で、効果量も小さい。2020 年 5 月調査で、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせた肯定的な回答は 85.7%（70 人中 60 人）で、2019 年 4 月調査では 83.6%（73 人中 61 人）と同じような割合となっているが、「そう思う」という強い肯定的な回答が、2020 年 5 月では 67.1%となっているのに対し、2019 年 4 月では 49.3%でしかなかった（表 3-2）。

質問項目⑬に対する 2020 年度入学生の自由記述欄の一例を紹介しておくと、「どちらかと言えばそう思う」と回答した学生の中には「日本語を話す私たちが中学や高校で日本史や古文を学ぶことと同じように英語でも触れるべきだと思うから」という記述があった。言語と文学のつながりは無視することはできないであろう、というのが私見である。また、「どちらとも言えない」

と回答しながらも、「英米文学を知っていて損することはないと思います。でも今のところ英米文学を知らなくて困ったことは一度もないし義務教育の間に英語で英米文学を学んだことはないので将来必要かどうかはわからないです。必要かどうかはわかりませんが学びたいという気持ちはあります！」という意欲的なコメントを書いている学生もいた。その一方で、唯一「どちらかと言えばそう思わない」と回答した学生の自由記述欄には「文学の知識はなくても英語が話せればいいという方は必要ないかと思います。逆に興味のある方はどんどん教養としてみにつけてもいいと思います」（原文のまま）と書かれている。「どちらとも言えない」と回答した学生の中にも、「文学自体に興味を持っている人とそうではない人と分かれるから」との記述が見られる。至極真つ当な意見である。かつての〈英文学科〉とは異なり、英米文学にはまったく興味がなく、ただ英語が話せればいいと思って英米学科に入学してくる学生がいることは当然想定されるべきことである。

▼表 3-2 ⑬英米学科生に英米文学の基礎知識は必要だと思いますか？

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらとも言えない	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない
2020 年	47	13	7	1	0
5 月	67.1%	18.6%	10.0%	1.4%	0.0%
2019 年	36	25	10	1	1
4 月	49.3%	34.2%	13.7%	1.4%	1.4%

(2020 年 5 月： $n = 70$, 2019 年 4 月： $n = 73$)

質問「⑫英語で書かれた文学を読むことは英語の習得に役立つと思いますか？」については、2020 年度入学生も 2019 年度入学生も同じ傾向で、ほぼ全員が肯定的な回答をしており（表 3-3）、マン・ホイットニー検定の結果でも有意差は認められない（ $U = 2329.5$, $p = .276$ ）。なお、この質問に関する自由記述欄には、「役に立つとは思うが、古い日本文学の言葉が現代で使われていないことは理解する事ができるが、洋書では、その判断が出来ないため、読むなら比較的新しいものを読みたい」（強調筆者）という記述があった。〈英

米文学〉を教えるという観点からは、英米文学の古典的作品を外すということとはできないが、〈語学教育〉という視点に立てば、コンテンポラリーな作品を扱うことも文学と語学教育の融合のためには必要なことであることをあらためて意識させられた。

▼表 3-3 ⑫英語で書かれた文学を読むことは英語の習得に役立つと思いますか？

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらとも言えない	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない
2020 年 5 月	57 81.4%	12 17.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
2019 年 4 月	55 75.3%	17 23.3%	1 1.4%	0 0.0%	0 0.0%

(2020 年 5 月： $n = 70$, 2019 年 4 月： $n = 73$)

総じて、2019 年度入学生よりも 2020 年度入学生の方が、英米文学を学ぶことの必要性をより強く感じている傾向があるようだが、この違いが入学年度によるものなのか、それとも 4 月と 5 月というアンケート調査実施時期の違いによるものなのかについては判断できない。

3.2 英語学習に関する質問

- ②英語を読むとき、訳文（和訳）は必要ですか？

③英語を読むとき、直読直解（英語を英語のまま日本語に訳さずに読む）を心がけていますか？

⑦英語を習得するためには「リーディング（reading/ 読解）」という作業は必要だと思いますか？

⑧英語で書かれた本は好きですか？

⑨授業以外で英語で書かれたものを読みますか？

⑩英語で書かれた Web ページや email を読みますか？

⑪授業以外で英語で書かれたものを読みたいですか？

⑬英語で書かれたものを読むなら、どんなものが読みたいですか？（複数回答可）

英語学習に関する 8 つの質問で、2019 年 4 月調査の結果と比較すると、マ

ン・ホイットニー検定の結果として有意差が認められたのは、「②英語を読むとき、訳文（和訳）は必要ですか?」「③英語を読むとき、直読直解（英語を英語のまま日本語に訳さずに読む）を心がけていますか?」「⑩英語で書かれた Web ページや email を読みますか?」「⑭英語で書かれたものを読むなら、どんなものが読みたいですか?」の 4 つである。

質問「②英語を読むとき、訳文（和訳）は必要ですか?」のマン・ホイットニー検定の結果は $U = 1824.5$, $p = .002$, $r = .26$ であり、2019 年 4 月調査の結果との間に有意差が認められる。2019 年度入学生と比べて、2020 年度入学生はより多くの学生が「訳文（和訳）」が必要だと感じていることがわかった。「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせた回答率が、2019 年度は 47.9%（73 人中 35 人）であったが、2020 年度は 70.0%（70 人中 49 人）となっている。逆に「どちらかと言えばそう思わない」「そう思わない」を合わせた回答率は、2019 年度は 21.9%（73 人中 16 人）であったが、2020 年度はわずか 8.6%（70 人中 6 人）となっている（表 3-4）。

「訳文（和訳）」が必要な理由としては、言うまでもなく「和訳がないと分からない文が時々あるから」「自分の訳が合っているかわからないから」「確認するためにあると必要だけど全部はいらない」といった自由記述に見られるように、解釈できない英文があるときや自身の解釈を確認するためである。

▼表 3-4 ②英語を読むとき、訳文（和訳）は必要ですか？

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらとも言えない	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない
2020 年	26	23	15	5	1
5 月	37.1%	32.9%	21.4%	7.1%	1.4%
2019 年	14	21	22	13	3
4 月	19.2%	28.8%	30.1%	17.8%	4.1%

(2020 年 5 月： $n = 70$, 2019 年 4 月： $n = 73$)

質問項目②と比例して、質問「③英語を読むとき、直読直解（英語を英語

のまま日本語に訳さずに読む)を心がけていますか?」についても、2019年度と比べて2020年度は直読直解を心がけている入学者の割合が低いという傾向の違いが認められ、マン・ホイットニー検定の結果として有意差が見られる($U = 1966$, $p = .014$, $r = .21$)。直読直解を心がけることについて「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせた回答は、2020年度入学生では48.6% (70人中34人)であるが、2019年度生では64.4% (73人中47人)であった。一方、「どちらかと言えばそう思わない」「そう思わない」を合わせた回答は、2020年度生では32.9% (70人中23人)であるが、2019年度入学生ではわずか5.5% (73人中4人)であった(表3-5)。2020年度入学生の自由記述欄には、直読直解を心がけていない理由としては、英語を読むとき「日本語に訳さないと意味が理解しにくい為」「そもそも直読直解したことがなかったです」と書かれている。逆に、直読直解を心がけることに関して「そう思う」と回答した学生の中には「高校の授業がそうだったから」という理由を記入している者もいる。平成29年の学習指導要領の改訂において、中学校の英語の授業は英語で行うことを基本とすると定められたが、高等学校に関しては、すでに平成22年の学習指導要領の改訂において同じことが規定されている。英語で授業が行われれば、自然と直読直解をせざるを得なくなると思われるが、高校での授業の実状が直読直解を心がける英米学科生の割合を反映しているのであろうか。

▼表3-5 ③英語を読むとき、直読直解(英語を英語のまま日本語に訳さずに読む)を心がけていますか?

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらとも言えない	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない
2020年 5月	15 21.4%	19 27.1%	13 18.6%	15 21.4%	8 11.4%
2019年 4月	18 24.7%	29 39.7%	22 30.1%	3 4.1%	1 1.4%

(2020年5月: $n = 70$, 2019年4月: $n = 73$)

質問「⑦英語を習得するためには『リーディング (reading/ 読解)』という作業は必要だと思いますか？」については、2020 年 5 月調査と 2019 年 4 月調査では、マン・ホイットニー検定の結果では有意差が認められない ($U = 2165$, $p = .059$)。英語学習における「リーディング (reading/ 読解)」の必要性については、2020 年度も 2019 年度もほぼ全員が肯定的な回答であり、積極的に否定する回答は見られない (表 3-6)。ただ、毎年自由記述欄を見て気づくことであるが、「リーディング (reading/ 読解)」を「音読」と勘違いしている学生がごく少数ながら存在する。実際、2020 年度 5 月調査でも、「記憶に残って結果的に早く覚えられそうだからです」「声に出すことで耳にも伝わるので習得しやすくなると思うからです」「読めないと発音などもできないからです」(強調筆者) という記述が見られた。

▼表 3-6 ⑦英語を習得するためには「リーディング (reading/ 読解)」という作業は必要だと思いますか？

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらとも言えない	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない
2020 年 5 月	59 84.3%	8 11.4%	1 1.4%	0 0.0%	0 0.0%
2019 年 4 月	54 74.0%	17 23.3%	2 2.7%	0 0.0%	0 0.0%

(2020 年 5 月： $n = 70$, 2019 年 4 月： $n = 73$)

質問「⑧英語で書かれた本は好きですか？」についても、2020 年度 5 月調査と 2019 年度 4 月調査では、マン・ホイットニー検定の結果としては有意差が認められなかった ($U = 2495.5$, $p = .919$)。いずれの年度においても、英語で書かれた本が好きだという回答は約 35%で、50%程度は「どちらとも言えない」と回答している (表 3-7)。自由記述欄を見ると、「好き」と回答した学生の中には、達成感 (「読めた時の達成感があるから」)、訳読 (「ゆっくり訳しながら読んでいくのが楽しいから」)、高校時代の経験 (「高校時代は“HOLES”という本を勧められて読みました。初めて読む本格的な英語で書か

れた小説でしたが楽しく読めました」[原文のまま]⁽¹⁾を理由としてあげている。「どちらとも言えない」と回答した学生の中には、「読んだことがないから」という記述が複数見られた。

▼表 3-7 ⑧英語で書かれた本は好きですか？

	好 き	どちらかと言 えば好き	どちらとも 言えない	どちらかと言え ば好きではない	好きではない
2020 年 5 月	12 17.1%	12 17.1%	35 50.0%	4 5.7%	6 8.6%
2019 年 4 月	8 11.0%	17 23.3%	39 53.4%	5 6.8%	4 5.5%

(2020 年 5 月： $n = 70$, 2019 年 4 月： $n = 73$)

質問「⑨授業以外で英語で書かれたものを読みますか？」は、自主的な英語学習の実態をたずねるものである。2020 年度は例年よりも一か月遅い 5 月での調査であり、学生は 4 月 22 日から 5 月 10 日の完全休講期間に英語の自主学習をするようになったのではないかと予想されたが、2019 年度 4 月調査とはあまり変わりの結果となり、マン・ホイットニー検定の結果では有意差が認められなかった ($U = 2230$, $p = .235$)。2020 年 5 月時点であっても、2019 年 4 月調査結果と同様に、授業以外で英語を「日常的に読む」学生は少なくて 1 割を超えることはなく、半数を超える学生は「ときどき読む」程度である。強いて言えば、2019 年 4 月調査では、授業以外で英語を「読まない」学生が 42.5%であったが、2020 年 5 月調査では 32.9%とやや少ない（表 3-8）。「ときどき読む」と回答した学生は、自由記述欄で「読む時間があるから」という理由をあげているが、これが大学の休講期間と関係しているかは不明である。授業以外で自主的に読んでいるものの一例としては、「英字新聞」「海外のニュースやアジア圏のニュース」「英語の絵本」「ディズニーマ英語の本」「翻訳されていないアメコミ」「海外のアイドルが好きなので、商品を購入するサイトの購入詳細が英語で書かれていることがあるため」といった記述があった。

▼表 3-8 ⑨授業以外で英語で書かれたものを读みますか？

	日常的に読む	ときどき読む	読まない
2020 年 5 月	5 7.1%	40 57.1%	23 32.9%
2019 年 4 月	3 4.1%	39 53.4%	31 42.5%

(2020 年 5 月： $n = 70$, 2019 年 4 月： $n = 73$)

質問「⑩英語で書かれた Web ページや email を读みますか？」については、2020 年 5 月調査と 2019 年 4 月調査では、マン・ホイットニー検定の結果として有意差が見られた ($U = 1633.5, p < .001, r = .35$)。2019 年 4 月調査では、Web ページや email を「読まない」という回答が 78.1%であったのが、2020 年 5 月調査では 42.9%であった (表 3-9)。この違いには大学での Google Classroom を使ったオンライン授業の展開が少なからず関係しており、自由記述欄を見ると、「大学が始まり、英語の先生から英語でメールが来るようになったから」という記述があり、計 11 人の学生が同じような趣旨の理由を記入している。Web ページで読むものの一例としては「世界のニュース」「CNN」「好きな俳優の記事」「好きなアーティストの情報」「海外のゴシップ」が、email に関しては「高校の語学研修でお世話になったホストマザーとメールのやり取り」「メッセージアプリで海外の友人とやり取り」という記述があった。

▼表 3-9 ⑩英語で書かれた Web ページや email を读みますか？

	日常的に読む	ときどき読む	読まない
2020 年 5 月	9 12.9%	30 42.9%	30 42.9%
2019 年 4 月	3 4.1%	13 17.8%	57 78.1%

(2020 年 5 月： $n = 70$, 2019 年 4 月： $n = 73$)

質問「⑪授業以外で英語で書かれたものを读みたいですか？」は、自主的

な英語学習に対する意欲をたずねるものである。質問「⑨授業以外で英語で書かれたものをを読みますか？」の結果と同じように、2020年度5月調査の結果は、2019年度4月調査の結果とはあまり変わりのないものとなり、マン・ホイットニー検定の結果としては有意差が認められなかった ($U = 2291$, $p = .308$)。2020年度入学生も2019年度入学生と同じように、85%程度の学生が授業以外でも英語で書かれたものを読みたいという意欲を見せているが、「どちらとも言えない」「どちらかと言えばそう思わない」「そう思わない」の回答率を見ると、10%強の学生は自主学習に対して意欲的ではない（表3-10）。意欲的ではない学生の自由記述欄には、「英語があまり好きではないから」「意欲がわからないから」「苦手だから」といった理由が見られる。

▼表 3-10 ⑪授業以外で英語で書かれたものを読みたいですか？

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらとも言えない	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない
2020年 5月	32 45.7%	28 40.0%	6 8.6%	2 2.9%	1 1.4%
2019年 4月	26 35.6%	38 52.1%	6 8.2%	1 1.4%	2 2.7%

(2020年5月： $n = 70$, 2019年4月： $n = 73$)

質問「⑭英語で書かれたものを読むなら、どんなものが読みたいですか？（複数回答可）」については、2020年5月調査と2019年4月調査では、すべての選択肢において異なった傾向が認められた。毎年「小説」を選択する回答が多く、2019年4月調査では82.2%ととりわけ高い数字であった。この数字と比べると、2020年5月調査では67.1%と低くなっているが、2018年4月調査では60.3%であったことを考えれば、それほど低い数字ではない。「小説」以外の選択肢については、すべての選択肢において2019年4月調査よりも2020年5月調査の方が高い選択率となっている（表3-11）。

2020年5月調査と2019年4月調査のそれぞれについて、各選択肢を選択した者と選択しなかった者の人数を分割表にまとめて比較すると、カイ2乗

検定の結果として、「小説」($\chi^2(1) = 4.30, p = .038, \phi = .17$)、「詩」($\chi^2(1) = 4.46, p = .035, \phi = .18$)、「新聞」($\chi^2(1) = 4.63, p = .031, \phi = .18$)、「雑誌」($\chi^2(1) = 5.85, p = .016, \phi = .20$)、「ノンフィクション」($\chi^2(1) = 6.04, p = .014, \phi = .21$)、「歴史」($\chi^2(1) = 6.44, p = .011, \phi = .21$)、「リーダー」($\chi^2(1) = 7.98, p = .005, \phi = .24$)、「TOEIC／英検等」($\chi^2(1) = 7.56, p = .006, \phi = .23$)、「Web ページ」($\chi^2(1) = 5.23, p = .022, \phi = .19$)、「email」($\chi^2(1) = 5.36, p = .021, \phi = .19$)というように、危険率5%での判定や効果量の小さいものも含まれるが、すべての選択肢において有意差が見られた。特に目立つものとしては「リーダー」や「TOEIC／英検等」で、危険率1%での判定でも有意差が見られ、それぞれ2020年度入学生の45.7%、57.1%というように、半数近くか半数を超える学生が選択している。

▼表 3-11 ⑭英語で書かれたものを読むなら、どんなものが読みたいですか？▼(複数回答可)

	小 説	詩	新 聞	雑 誌	ノンフィクション
2020 年	47	13	28	36	24
5 月	67.1%	18.6%	40.0%	51.4%	34.3%
2019 年	60	5	17	23	12
4 月	82.2%	6.8%	23.3%	31.5%	16.4%
	歴 史	リーダー	TOEIC／英検等	Web ページ	email
2020 年	18	32	40	18	14
5 月	25.7%	45.7%	57.1%	25.7%	20.0%
2019 年	7	17	25	8	5
4 月	9.6%	23.3%	34.2%	11.0%	6.8%

(2020 年 5 月： $n = 70$, 2019 年 4 月： $n = 73$)

3.3 文学・映画に関する質問

- ④文学（日本・外国は問わず）は好きですか？
- ⑤映画は好きですか？
- ⑥日本語字幕なしの英語音声だけの映画は好きですか？
- ⑮次の英米の作家・作品について [知っている／聞いたことはある／知らない] をつけてください。

3つの質問「④文学（日本・外国は問わず）は好きですか?」「⑤映画は好きですか?」「⑥日本語字幕なしの英語音声だけの映画は好きですか?」に関しては、2020年度入学生も2019年度入学生も同じような傾向が見られた。マン・ホイットニー検定の結果としては、質問項目④（ $U = 2359.5$, $p = .411$ ）、質問項目⑤（ $U = 2140.5$, $p = .065$ ）、質問項目⑥（ $U = 2489.5$, $p = .900$ ）というように有意差は認められなかった。

2020年5月調査でも2019年4月調査でも、文学が「好き」「どちらかと言えば好き」だと回答する学生は4割を超えることはなく、4割程度の学生は「どちらとも言えない」という回答をし、文学が「好きではない」「どちらかと言えば好きではない」と回答する学生は少なからず2割程度存在する（表3-12）。映画に関しては、いずれの年度においても9割に近い学生が「好き」「どちらかと言えば好き」という傾向にあるが、「好き」という強い肯定的な回答は2020年度入学生では74.3%であるが、2019年度では56.2%でしかなかった（表3-13）。9割に近い学生は映画を好む傾向にあるが、日本語字幕なしの英語音声だけの映画となると、「好き」「どちらかと言えば好き」と回答する学生は2割程度になる。2020年5月調査では、28人（40.0%）が、日本語字幕なしの英語音声だけの映画について、好きかどうか「どちらとも言えない」と回答しているが、自由記述欄には「見たことがない」「あまり見たことがない」という記述が複数見られた（表3-14）。

▼表 3-12 ④文学（日本・外国は問わず）は好きですか？

	好 き	どちらかと言 えば好き	どちらとも 言えない	どちらかと言え ば好きではない	好きではない
2020 年	12	15	30	8	5
5 月	17.1%	21.4%	42.9%	11.4%	7.1%
2019 年	13	13	27	10	10
4 月	17.8%	17.8%	37.0%	13.7%	13.7%

（2020年5月： $n = 70$ ，2019年4月： $n = 73$ ）

▼表 3-13 ⑤映画は好きですか？

	好 き	どちらかと言 えば好き	どちらとも 言えない	どちらかと言え ば好きではない	好きではない
2020 年	52	10	5	0	3
5 月	74.3%	14.3%	7.1%	0.0%	4.3%
2019 年	41	23	6	1	1
4 月	56.2%	31.5%	8.2%	1.4%	1.4%

(2020 年 5 月： $n = 70$, 2019 年 4 月： $n = 73$)

▼表 3-14 ⑥日本語字幕なしの英語音声だけの映画は好きですか？

	好 き	どちらかと言 えば好き	どちらとも 言えない	どちらかと言え ば好きではない	好きではない
2020 年	7	10	28	13	11
5 月	10.0%	14.3%	40.0%	18.6%	15.7%
2019 年	6	8	36	17	6
4 月	8.2%	11.0%	49.3%	23.3%	8.2%

(2020 年 5 月： $n = 70$, 2019 年 4 月： $n = 73$)

質問「⑤次の英米の作家・作品について〔知っている／聞いたことはある／知らない〕をつけてください」に対する回答から総じて言えることは、例年どおり、英米学科入学生の英米文学に関する知識は乏しいということである。2020 年度も 2019 年度と同様に、リストの中でもっとも知名度の高い作家はシェイクスピアであり、もっとも知名度の高い作品は、そのシェイクスピアの『ロミオとジュリエット』であった。シェイクスピアを「知っている」という回答は 47.1% (2019 年度 57.5%)、『ロミオとジュリエット』を「知っている」という回答は 70.0% (2019 年度 74.0%) である。しかしながら、2019 年度入学生でシェイクスピアを知らないという学生はゼロであったが、2020 年度入学生では 4 人 (5.7%) が「知らない」と回答している（『ロミオとジュリエット』を「知らない」と回答したのは、2019 年度では 1 人 [1.4%] であったが、2020 年度では 3 人 [4.3%] である）。別の例をとりあげると、『ライ麦畑で捕まえて』（『キャッチャー・イン・ザ・ライ』）の（意外な）知名度の低さは 2020 年度もまだ続いているようである。2019 年度入学生のうち 52

人（71.2％）が「知らない」と回答していたが、2020 年度では少しは数字的に改善されたものの、それでもまだ 46 人（65.7％）が「知らない」と回答している（表 2-15）。

質問項目⑮の意図としては、いかに新入生が英米の作家・作品について知識がないのかを把握することである。「知っている」と「聞いたことはある」の二つの回答数を一つにまとめ、2020 年 5 月調査と 2019 年 4 月調査のそれぞれについて、「知っている／聞いたことはある」と「知らない」の回答数を分割表にまとめて比較すると、カイ 2 乗検定の結果として、危険率 5％での判定や効果量の小さいものも含まれるが、次の作家・作品に有意差が見られた。作家では、ミルトン（ $\chi^2(1) = 6.32, p = .012, \phi = .21$ ）、T. S. エリオット（ $\chi^2(1) = 4.94, p = .024, \phi = .19$ ）、ジョージ・オーウェル（ $\chi^2(1) = 9.06, p = .002, \phi = .26$ ）、作品では、『クリスマス・キャロル』（ $\chi^2(1) = 4.12, p = .042, \phi = .17$ ）、『モルグ街の殺人』（ $\chi^2(1) = 4.31, p = .038, \phi = .18$ ）、『老人と海』（ $\chi^2(1) = 4.72, p = .030, \phi = .19$ ）、『誰がために鐘は鳴る』（ $\chi^2(1) = 6.53, p = .011, \phi = .22$ ）である。2019 年度入学生と比べると、2020 年度入学生の間では、ミルトンと『クリスマス・キャロル』は知名度が低く、逆に T. S. エリオット、ジョージ・オーウェル、『モルグ街の殺人』、『老人と海』、『誰がために鐘は鳴る』は知名度が高い傾向にあるようで、とりわけミルトン、ジョージ・オーウェル、『誰がために鐘は鳴る』についてはその傾向が顕著である（表 3-15）。

▼表 3-15 ⑮次の英米の作家・作品について [知っている／聞いたことはある／知らない] をつけてください。

	知っている／ 聞いたことはある	知らない		知っている／ 聞いたことはある	知らない
【ミルトン】			【T.S. エリオット】		
2020 年	12	55	2020 年	12	55
5 月	17.1%	78.6%	5 月	17.1%	78.6%
2019 年	26	44	2019 年	4	66
4 月	35.6%	60.3%	4 月	5.5%	90.4%

【ジョージ・オーウェル】		
2020 年	16	51
5 月	22.9%	72.9%
2019 年	4	66
4 月	5.5%	90.4%
【『モルグ街の殺人』】		
2020 年	14	53
5 月	20.0%	75.7%
2019 年	6	65
4 月	8.2%	89.0%
【『誰がために鐘は鳴る』】		
2020 年	18	49
5 月	25.7%	70.0%
2019 年	7	63
4 月	9.6%	86.3%

【『クリスマス・キャロル』】		
2020 年	28	40
5 月	40.0%	57.1%
2019 年	42	30
4 月	57.5%	41.1%
【『老人と海』】		
2020 年	16	51
5 月	22.9%	72.9%
2019 年	7	63
4 月	9.6%	86.3%

(2020 年 5 月 : $n = 70$, 2019 年 4 月 : $n = 73$)

4. 2020 年 7 月調査結果の分析と考察

4.1 英米学科生が英米文学を学ぶことに関する質問

英米学科生が英米文学を学ぶことに関する 3 つの質問のうち、2020 年度の 7 月調査と 5 月調査でマン・ホイットニー検定の結果として有意差が認められたのは⁽²⁾、「①英米文学は勉強すべきだと思いますか？」($U = 1520, p < .001, r = .37$) と、危険率 5% での判定で効果量も小さいが「⑬英米学科生に英米文学の基礎知識は必要だと思いますか？」($U = 1942, p = .024, r = .19$) の 2 つである。質問「⑫英語で書かれた文学を読むことは英語の習得に役立つと思いますか？」については、有意差は見られなかった ($U = 2139, p = .079$)。

質問「①英米文学は勉強すべきだと思いますか？」については、5 月調査では「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせると 94.3% (70 人中 66 人) が肯定的な意見となっていたが、7 月調査では 90% を切り、80.3%

(71人中57人)が肯定的な意見となっている。さらに、5月調査では「そう思う」という強い肯定的な回答がもっとも多く60.0%を占めていたが、7月調査では25.4%と大きく減少し、代わりに「どちらかと言えばそう思う」という回答が54.9%でもっとも多くなった。また、5月調査では否定的な回答はゼロであったが、7月調査では「どちらかと言えばそう思わない」「そう思わない」という回答がそれぞれ4人(5.6%)、3人(4.2%)見られる(表2-1)。

質問「⑬英米学科生に英米文学の基礎知識は必要だと思いますか？」については、5月調査でも7月調査でも、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせた肯定的な意見は、それぞれ85.7%(70人中60人)、83.1%(71人中59人)と近い数値となっている。しかしながら、5月調査では「そう思う」という強い肯定的な回答がもっとも多く67.1%を占めていたが、7月調査では49.3%と減少し、代わりに「どちらかと言えばそう思う」という回答が5月の18.6%から7月は33.8%へと上昇している。また、5月調査では「そう思わない」という回答はゼロであったが、7月調査では3人(4.2%)となっている(表2-13)。

2020年度入学生は英米文学を学ぶことに対して、2019年度入学生よりも意欲的であったことは、すでに述べたとおりである(3.1)。英米学科生が英米文学を学ぶことに関する3つの質問について、前年2019年7月調査の結果と比べてみると、質問「①英米文学は勉強すべきだと思いますか？」($U = 2466, p = .810$)、「⑫英語で書かれた文学を読むことは英語の習得に役立つと思いますか？」($U = 2262, p = .266$)、「⑬英米学科生に英米文学の基礎知識は必要だと思いますか？」($U = 2161.5, p = .182$)というように、マン・ホイットニー検定の結果では有意差は認められず、7月時点での2020年度入学生の英米文学を学ぶことに対する意識は、同じく7月時点での前年2019年度入学生と同じような傾向である(表4-1, 4-2, 4-3)。

▼表 4-1 ①英米文学は勉強すべきだと思いますか？

	そう思う	どちらかと言 えばそう思う	どちらとも 言えない	どちらかと言え ばそう思わない	そう思わない
2020 年	18	39	7	4	3
7 月	25.4%	54.9%	9.9%	5.6%	4.2%
2019 年	22	31	15	3	0
7 月	31.0%	43.7%	21.1%	4.2%	0.0%

(2020 年 7 月： $n = 71$, 2019 年 7 月： $n = 71$)

▼表 4-2 ⑫英語で書かれた文学を読むことは英語の習得に役立つと思いますか？

	そう思う	どちらかと言 えばそう思う	どちらとも 言えない	どちらかと言え ばそう思わない	そう思わない
2020 年	50	19	1	0	1
7 月	70.4%	26.8%	1.4%	0.0%	1.4%
2019 年	44	20	5	0	1
7 月	62.0%	28.2%	7.0%	0.0%	1.4%

(2020 年 7 月： $n = 71$, 2019 年 7 月： $n = 71$)

▼表 4-3 ⑬英米学科生に英米文学の基礎知識は必要だと思いますか？

	そう思う	どちらかと言 えばそう思う	どちらとも 言えない	どちらかと言え ばそう思わない	そう思わない
2020 年	35	24	8	1	3
7 月	49.3%	33.8%	11.3%	1.4%	4.2%
2019 年	41	20	8	0	0
7 月	57.7%	28.2%	11.3%	0.0%	0.0%

(2020 年 7 月： $n = 71$, 2019 年 7 月： $n = 71$)

7 月調査では理由をたずねる自由記述欄を設けていないので、2つの質問「①英米文学は勉強すべきだと思いますか？」「⑬英米学科生に英米文学の基礎知識は必要だと思いますか？」に関して、2020 年度入学生の意識が5月と7月で変化した要因を特定することはできないが、表層的には「そう思う」という強い肯定的な回答が少なくなり、代わりに「どちらかと言えばそう思う」という回答が増えたことが指摘できる。2020 年度入学生は、入学時に抱いて

いた英米文学を学ぶことに対する高い期待感を春学期終了まで維持できなかったということであり、その期待に十分応えられなかったのは残念な結果である。授業のあり方を改善し、今後いかにして英米文学の魅力を学生に伝えるのかについて検討していく必要があるということは認めなければならない。ただ、この2つの質問については7月時点での2020年度入学生の意識は、前年2019年度入学生の7月時点での意識と同じような傾向であるということから、2020年度入学生の期待を必ずしも大きく裏切ったということではなく、2020年度入学生の入学時の期待感が高すぎたのかもしれない（2019年度入学生の場合、英米学科生が英米文学を学ぶことに関する3つの質問に関しては、7月調査と4月調査では傾向の違いは見られなかった）。また、2020年度春学期は対面授業ではなく、課題がより多く課せられる（その意味では学生には不評であった）オンライン授業であったということも、英米文学を学ぶことに対する学生の意識を変化させたのかもしれない。

4.2 英語学習に関する質問

英語学習に関する8つの質問のうち、2020年度の7月調査と5月調査でマン・ホイットニー検定の結果として有意差が認められたのは、「⑪授業以外で英語で書かれたものを読みたいですか？」（ $U = 1672, p < .001, r = .29$ ）と、「⑭英語で書かれたものを読むなら、どんなものが読みたいですか？」の「歴史」（ $\chi^2(1) = 9.00, p = .003, \phi = .25$ ）だけであった。

他の質問項目に関しては、「②英語を読むとき、訳文（和訳）は必要ですか？」（ $U = 2464, p = .927$ ）、「③英語を読むとき、直読直解（英語を英語のまま日本語に訳さずに読む）を心がけていますか？」（ $U = 2150.5, p = .154$ ）、「⑦英語を習得するためには『リーディング（reading/読解）』という作業は必要だと思いますか？」（ $U = 2116.5, p = .068$ ）、「⑧英語で書かれた本は好きですか？」（ $U = 2436, p = .952$ ）、「⑨授業以外で英語で書かれたものを読みますか？」（ $U = 2380, p = 1$ ）、「⑩英語で書かれたWebページやemailを読みますか？」（ $U = 2095.5, p = .140$ ）というように有意差は見られなかった。

有意差の見られた質問「⑪授業以外で英語で書かれたものを読みたいで

か？」については、英米学科生が英米文学を学ぶことに関する質問項目①や⑬と同様に、5月調査では「そう思う」という強い肯定的な回答がもっとも多く45.7%であったが、7月調査では「どちらかと言えばそう思う」という回答が増えてもっとも多くなり50.7%を占めることとなった（表2-11）。一学期間の学修を終えて、英語を自主的に学習することへの意欲が薄らいだのであろうか、そうであれば残念である。

5月調査と7月調査で有意差の見られなかった質問項目のうち、「③英語を読むとき、直読直解（英語を英語のまま日本語に訳さずに読む）を心がけていますか？」「⑧英語で書かれた本は好きですか？」「⑨授業以外で英語で書かれたものを読みますか？」「⑩英語で書かれた Web ページや email を読みますか？」については、英米学科で学ぶことによって意識が変化し、肯定的な回答が大幅に増加することを期待していたが、残念ながら現実的にはそうはなっていない（表2-3, 2-8, 2-9, 2-10）。たとえば、質問「⑨授業以外で英語で書かれたものを読みますか？」については、5月時点では「読まない」という回答が32.9%を占めていたが、7月時点でも依然として35.2%が「読まない」と回答している。また、「日常的に読む」と答えた回答者は7月では2人増えたが、それでも回答者全体のうちの9.9%でしかない。大学の授業だけで手一杯なのかもしれないが、英語習得には自主学習も必要である。英語を習得するためには「リーディング」が必要であることは多くの学生が意識していることであるのだから（表2-7）、授業以外でも積極的に実践してもらいたい。なお、質問「⑩英語で書かれた Web ページや email を読みますか？」で「読まない」という回答は、42.9%から29.6%へと減少している（表2-10）。

質問「③英語を読むとき、直読直解（英語を英語のまま日本語に訳さずに読む）を心がけていますか？」については、5月と7月では全体的な傾向としては有意差は見られなかったが、「そう思う」の回答率は21.4%から18.3%へと微減しているものの、「どちらかと言えばそう思う」の回答率が27.1%から40.8%に上昇している。その結果、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせた肯定的な回答の割合が、5月時点では48.6%（70人中34人）であっ

たのが、7月時点では59.2%（71人中42人）となっている（表2-3）。まだ6割弱であるが、英文を大量にかつ速く読むためには直読直解は不可欠であり、すべての英米学科生に身につけてもらいたいスキルである。前年2019年度入学生の7月時点での調査では、直読直解について「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせた肯定的な回答の割合は81.7%（71人中58人）であり（表4-4）、この数字と比べると2020年7月調査結果の数字は明らかに小さく、マン・ホイットニー検定の結果としても有意差が認められた（ $U = 1903.5$, $p = .007$, $r = .23$ ）。

▼表4-4 ③英語を読むとき、直読直解（英語を英語のまま日本語に訳さずに読む）を心がけていますか？

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらとも言えない	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない
2020年 7月	13 18.3%	29 40.8%	17 23.9%	12 16.9%	0 0.0%
2019年 7月	21 29.6%	37 52.1%	7 9.9%	5 7.0%	1 1.4%

（2020年7月： $n = 71$ ，2019年7月： $n = 71$ ）

「⑭英語で書かれたものを読むなら、どんなものが読みたいですか？」の選択肢「歴史」であるが、その理由はわからないが、「歴史」の人气が急に下がってしまったようである（表2-14）。

4.3 文学・映画に関する質問

7月調査では、文学・映画に関する4つの質問のうち、「⑮次の英米の作家・作品について〔知っている／聞いたことはある／知らない〕をつけてください」は質問項目としては含めていない。これ以外の3つの質問に関しては、5月調査の結果と7月調査の結果とでは、「④文学（日本・外国は問わず）は好きですか？」（ $U = 2138$, $p = .138$ ）、「⑤映画は好きですか？」（ $U = 2373$, $p = .562$ ）、「⑥日本語字幕なしの英語音声だけの映画は好きですか？」（ $U =$

2032.5, $p = .068$) というように、マン・ホイットニー検定の結果では有意差は認められなかった。

質問「④文学（日本・外国は問わず）は好きですか？」について実際の数値を見てみると、5月調査と7月調査では、「どちらとも言えない」という回答が42.9%から25.4%へと減少し、代わりに「好き」が17.1%から25.4%、「どちらかと言えば好き」が21.4%から31.0%へとそれぞれ増加し、その結果「好き」「どちらかと言えば好き」を合わせると56.3%（71人中40人）というように半数を超えている（表2-4）。個人的には文学好きな学生が増えたことは喜ばしいことであるが、マン・ホイットニー検定の結果としては有意差が認められないので、文学好きな学生が増えたことに意味があるのかどうかは断定できない。

※本稿の一部は、大学英語教育学会（JACET）関西支部・文学教育研究会2020年10月例会（10月24日、Zoomによるオンライン会議）における口頭発表をもとにしている。

注

- (1) *Holes* は、アメリカの児童文学作家ルイス・サッカー（Louis Sachar）によるヤングアダルト小説。1998年に初版が出版され、2003年にディズニーによって映画化。
- (2) 5月と7月で意識の変化を調べるのであれば、対応のある2群の検定（ウィルコクソン符号付順位和検定）をすべきであるが、5月調査も7月調査も無記名式アンケート調査であり、個人名以外での特定もしていないので、残念ながらそれができない。

参考文献

- 松本真治（2019）「文学と語学教育——佛教大学英米学科1年生対象の意識調査の分析（7）」佛教大学英文学会『英文学論集』第26号 29-44頁
- ,（2020）「文学と語学教育——佛教大学英米学科1年生対象の意識調査の分析（8）」佛教大学英文学会『英文学論集』第27号 1-27頁